

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00070

研究課題名(和文) 上古日本天台における一乗思想の基礎研究-叡山文庫蔵『法華三宗相对抄』を中心に-

研究課題名(英文) Fundamental Research on Ichijo Idea in Ancient Japan Tendai - Focusing on the Hokke Sanshu Sosho from the Eizan Bunko collection -

研究代表者

道元 徹心 (Michimoto, Tesshin)

龍谷大学・先端理工学部・教授

研究者番号：60368024

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：千観『三宗相对抄』の引用文から、逸文であった『玄賛要集』巻22・巻30・巻31(一部分)・巻32の翻刻による部分復元をおこなった。その他、古写本の翻刻を合わせ計133丁を翻刻公開した。千観は『法華経』方便品の文を「二と三を序数にして第二第三(第二を縁覚・第三を声聞)と解釈する三乗思想の解釈を妄説として退けている点を指摘した。千観が最澄の『法華秀句』の内容に言及し自説を展開する点を新たに提示できた。また、源信が『一乗要決』に2箇所引用する『法華玄賛』の文は、千観の解釈を指南として引用していることを論文で提起した。以上、日本天台の一乗思想の展開上、従来研究に比して千観の大きな存在を指摘できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は、日本天台における一乗と三乗の仏性問題の再検討を目的とする。最澄以降の仏性論争では、良源を経て源信に至ったとされるが、良源とほぼ同年代であった千観(918-984)の事績が全く見過ごされてきた感が否めない。

千観は従来は浄土教の思想面で語られてきた。しかし新出文献に準じる千観撰『法華三宗相对抄』の内容を調査し、平安期における日本天台の一乗三乗の仏性問題について再検討することができた。

研究成果の概要(英文)：This study revealed that Senkan was the first Tendai in Japan to quote Kyosuiji Shufu's "Hokekyo Gensanyoshu" in "Hokke Sanshu Sososho". By transcribing the quotations, the original text of "Gensanyoshu" Vol. I was able to present a clue to elucidate the view of shu. Senkan, in the theory of the first power of expedient items in the Lotus Sutra, "there is no second power or two, or three," is replaced by "two and three are the ordinal numbers, and the second and third (the second is the enkaku He also pointed out that it is a delusional theory to interpret the third as "Shomon". In the development of Tendai's Ichijo thought, the existence of Senkan, which had been overlooked in the past, was clarified. As a result, a total of 55 old manuscripts were published. Transcript published.

研究分野：仏教学

キーワード：千観 法華三宗相对抄 天台 一乗思想 一三権実論争 栖霞 法華経玄賛要集 最澄

### 1. 研究開始当初の背景

最澄(767～822)所説の一乗思想と徳一(～783～)所説の三乗思想は数年に及ぶ仏性論争になって展開、最澄の『法華秀句』(821)を最後に両者の決着を見ずに終わり、その後は源信の『一乗要決』(1006)によって一応の区切りを得たとされる。その間185年間で直接論争に関わる大きな事績に応和の宗論(963)がある。しかし『一乗要決』に至る一乗思想と三乗思想との論争展開において、精緻な学術的究明は未解決として残されていた。今回、叡山文庫より検出した千観撰『法華三宗相对抄』(以下、『三宗相对抄』)は、応和の宗論の前年(962)に書き始められた大著であることが判明し、初期日本天台における仏性問題について研究する上で新たな知見を得ることが可能となった。

### 2. 研究の目的

本研究課題「上古日本天台における一乗思想の基礎研究 -叡山文庫蔵『法華三宗相对抄』を中心に-」は、日本天台における一乗三乗の仏性問題の再検討を目的とする。最澄以降の仏性論争は良源を経て源信に至るとされてきたが、良源とほぼ同年代であった千観(918～984)の事績は全く見過ごされてきた感が否めない。千観は良源と同じく論義において活躍しており、従来の研究では千観の浄土教として語られてきた。しかし、千観が法華一乗思想や一三権実論において論じられることは殆ど無かった。そこで新出文献に準じる叡山文庫所蔵の千観撰『三宗相对抄』の内容を研究し、平安期における日本天台の一乗三乗の仏性問題について再検討を加えることを本研究の目的とした。

### 3. 研究の方法

本書は総数3307丁もの膨大な文献であるから、総てを翻刻することは困難である。そこで『三宗相对抄』の中でも千観の自説が含まれる別本に注目し、特に千観の解説が特徴的となる『法華経』「方便品」を中心に調査した。別本の巻4の巻末から別本巻5の44丁など計62丁を翻刻し、順次千観自身の見解が見られる箇所を翻刻研究していく方法をとった。

### 4. 研究成果

千観は『三宗相对抄』において、慈恩大師基の『法華玄賛』およびその註釈である鏡水寺栖復の『法華経玄賛要集』を引用する。その引用文をもとにし、逸文であった『玄賛要集』巻22・巻30・巻31(一部分)・巻32の原文を推定し71丁部分の翻刻による部分復元をした。その他、古写本の翻刻研究においては別本第1の8丁、第4の10丁、第5の44丁、計62丁を翻刻、逸文部分を含め計133丁を翻刻公開した。

千観は『法華経』成立史上、特に方便品に着目する。ここでは「余乗の若しは二、若しは三あ

ることなし」の文を「二と三を序数にして第二第三（第二を縁覚・第三を声聞）と解釈する三乗思想の解釈を妄説として退けている点も明らかとなった。

本研究では、千観が『三宗相对抄』で最澄の『法華秀句』の内容に言及し自説を展開していることを新たに提示することができた。また、源信が『一乗要決』に2箇所引用する『法華玄賛』の文は、千観の『三宗相对抄』を指南として引用していることを論文で提起した。

以上、日本天台の一乗思想の展開上、従来研究に比して千観の大きな存在を指摘できた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 道元徹心	4. 巻 77・78合併号
2. 論文標題 栖霞『法華經玄贊要集』逸文について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 仏教学研究	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道元徹心	4. 巻 62
2. 論文標題 龍谷大学図書館所蔵『円頓菩薩戒口訣』について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 天台学報	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道元徹心	4. 巻 67-1
2. 論文標題 千観撰『法華三宗相对抄』の資料的価値	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 道元徹心	4. 巻 特別号第2
2. 論文標題 叡山文庫蔵・千観撰『法華三宗要録』序の記述について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 天台学報	6. 最初と最後の頁 53-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道元徹心	4. 巻 特別号
2. 論文標題 叡山文庫蔵・千観撰『法華三宗相對抄』について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 坂本廣博博士喜寿記念論文集・佛教の心と文化	6. 最初と最後の頁 499-529
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 道元徹心
2. 発表標題 日本天台における千観撰『法華三宗相對抄』の位置
3. 学会等名 中国人民大学・龍谷大学・中央民族大学仏教学術交流会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 道元徹心
2. 発表標題 千観撰『法華三宗相對抄』に関する諸問題
3. 学会等名 ハーバード大学ライシャワーセンター & 龍谷大学アジア仏教文化研究センター共同主催国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 道元徹心編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 387
3. 書名 日本仏教の展開とその造形	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------